

株主の皆様へ  
三菱商事グループの  
企業価値向上に  
邁進します。

Top  
Message

## CONTENTS

Top Message 株主の皆様へ	3
Special Feature 三菱商事の経営人材 地球環境・インフラ事業グループ エネルギー事業グループ	8
ビジネスハイライト	12
三菱ゆかりの地を訪ねて 静嘉堂	16
CSR DREAM AS ONE. 復興支援	18
会社情報	22

## 2016年度通期見通しを上方修正

### 業績

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年度第2四半期連結決算、および2016年度の通期業績見通しについて、ご報告申し上げます。

2016年度第2四半期の三菱商事グループの連結純利益は1,798億円となり、前年同期比で249億円の増益、5月10日に公表しました通期業績見通し(連結純利益2,500億円)に対する進捗率は72%となりました。

非資源分野では、前年同期に計上した一過性利

益の反動などにより減益となったものの、資源分野の豪州石炭事業における生産コスト改善や市況上昇による持分利益の増加などにより、全体として増益となったものです。

また、第2四半期の実績、および資源価格の上昇などを踏まえ、2016年度の通期業績見通しを3,300億円(期初公表見通し比+800億円)に上方修正しました。

資源価格は引き続き流動的な状況が見込まれるため、その動向に一喜一憂せず、『中期経営戦略2018』で掲げる「資源と非資源のバランスの見直し」を着実に実行してまいります。

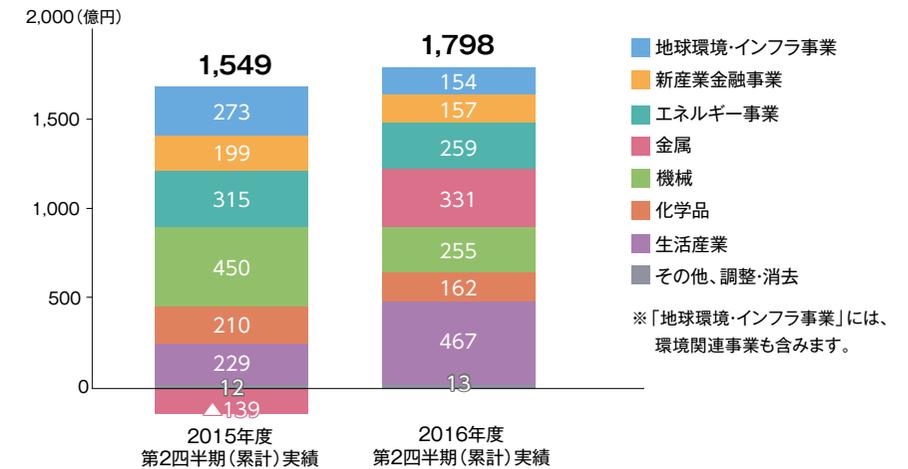
### 配当

『中期経営戦略2018』では、株主還元については配当を基本とし、持続的な利益成長に合わせて増配していく累進配当を基本方針としております。

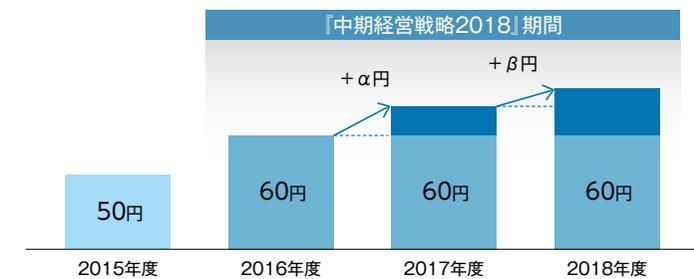
2016年度の中間配当につきましては、1株当たり30円とし、年間配当は5月10日に公表した「1株当たり60円」を予定しております。



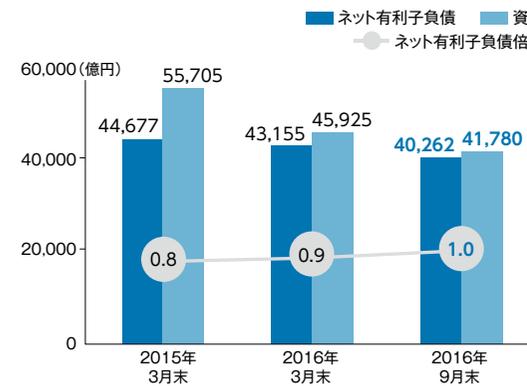
### セグメント別連結純利益の推移



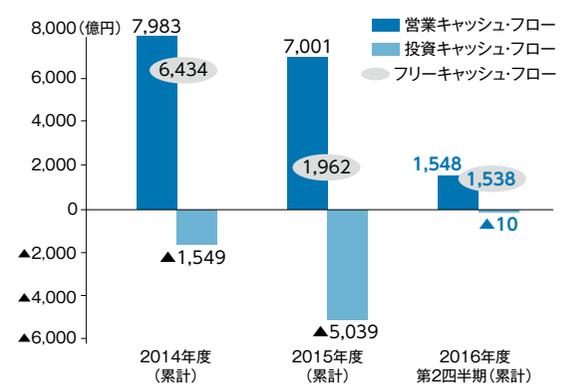
### 株主還元



### 資本と有利子負債



### キャッシュ・フロー



## 経営人材の育成を通じて「事業経営モデル」へのシフトを推進

三菱商事は、創立以来、世の中の変化に対応しながら、事業モデルを進化させてきました。

2016年度からの3カ年の経営計画『中期経営戦略2018』では、これまでの成長の源泉を「投資」に求める発想を転換し、三菱商事の強みをベースに、より深く経営に入っていくことで、事業を変革して新

たな価値を創出したり、合従連衡等により事業構造を改革したり、事業再生により企業価値を向上させていくことを目指します。

事業投資モデルから事業経営モデルへのシフトを実現する鍵は、環境の変化に柔軟に対応できる想定力を備え、事業の経営を主体的に行うことのできる、

経営能力の高い人材をより多く育成・輩出できるかだと考えています。現在、三菱商事グループの関係会社は1,000社を超え、経営のできる人材が育つ「場」は十分にあると考えます。

私は、三菱商事の財産は人材であると考えます。今後も全社を挙げて経営人材の育成に取り組む、その人材が新たな事業を生み出すことで会社を発展させていく、そうした好循環を実現することで三菱商事グループの企業価値の向上に邁進していく所存です。

今後とも、株主の皆様のご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

2016年11月  
代表取締役 社長

垣内 威彦



### 「事業投資」から「事業経営」へのシフト

これまでの成長の源泉を「投資」に求める発想を転換し、事業の中に入り、三菱商事の「経営力」をもって主体的に価値を生み出し、成長していくことを推進します。

